

# 平成 24 年度「異文化理解」教育プログラム事業報告

(自平成 24 年 4 月 1 日～至平成 25 年 3 月 31 日)

## 1 平成 24 年度数値目標

1. 実施校数 年間 230 校(NE T数)
2. 講義時間数 年間 1,700 時間

## 年度別実績推移(資料①・②)

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
実施校数(NET)	206	206	199	226	245
出講講師数(人)	989	967	971	1,032	1,107
講義時間数(時間)	1,609	1,553	1,603	1,717	1,903
講師料(千円)	16,423	16,003	16,089	17,106	18,705

## 活動の推移

実施校数(NET)及び講義時間数とも目標数値は、達成致しました。受付事務処理業務の改善や新規校への働きかけが、実績数字の増加の要因であるといえます。

年間を通じて、業務内容のデータ化を実行し、学校の要望に応えられる体制を築いた結果、事業開始以来最高の数値が達成できました。

## ○改良型講師データの活用

- 1 留学生講師全員約 100 名の個人データを毎月把握した。(資料③)
- 2 講師データを基に、学校からの申し込み・要望に対し、可能な限り対応した。

この改善した講師データベースで留学生の状況を把握することにより、学校と講義日の折衝、講師の決定に対応できる体制が整ったといえます。

資料①の 24 年度「申込学校数」(複数回申込校含む)では、9 月までに 263 校と年間実施校の 88%が申込み、事務局の繁忙期は、「受付対応業務の 4 月～9 月」と「派遣業務と確認作業の 10 月～3 月」の 2 期に分かれて業務が行われていることが分かります。

現状では、10 月以降、学校からの申込を受理することは困難な状況になってきました。

## 2 講師の充実と実施校の内訳

### ①学校の要望に応じた国・地域の留学生講師の確保

ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの地域の留学生の応募が少なくなり、「英語活動」講師から兼任講師として面接し、以下の8か国の講師を新年度に登録し補いました。

オーストラリア・アメリカ・コンゴ・ベナン・モルドバ・アルジェリア  
ニュージーランド・ブラジル

### ②小学校・高等学校の実施校が増加

昨年度より数字が伸びた原因の一つに、小学校・高校の実施校の増加があります。高校はクラス数が多い(1学年7~10クラス)ので講義数の増加にも繋がっています。

	平成23年度	平成24年度
小学校	46校(20%)	57校(23%)
中学校	132校(59%)	131校(53%)
高等学校	44校(19%)	51校(21%)
その他	4団体(2%)	6団体(2%)
合計	226校(100%)	245校(100%)

## 3 留学生講師募集大学の増加

毎年留学生講師募集にご協力頂いている大学は18大学でしたが、震災の影響が続いているとみて、留学生数の減少を危惧し、新たに4校(明治大学・青山学院大学・東京医科歯科大学・埼玉大学)の大学に募集依頼をお願いし、22大学での募集をおこないました。結果、応募者は昨年度とほぼ同じ117名となりました。

## 4 学校からの講義の満足度評価

講義を実施した学校の先生からのアンケート方式で得た評価には大変高いものがあります。(資料④)

## 5 事務局の対応力の向上

### ①申込から講義依頼まで業務分担とチェック機能

学校の依頼書及び留学生講師の出講について、梅村・串間で、渉外と書類作成業務及び郵送書類のチェック機能を明確にし、申し込みに対しミスなく対応できる体制を目指しました。

## ②富山常務理事・堀内シニアアドバイザーの学校へのアプローチ効果

留学生講師の現場指導の他に、学校長や担当者へのプログラム導入の説明努力が実ってきて新規校の増加、継続校の次年度への継続実施に結び付いてきています。

## ③ホームページの全面デザイン改定

新規の申込校の為に「講義申込書」の発行をわかりやすく改善し、電話での問い合わせに対し、ホームページの利用を促進し、対応しました。

## ④留学生講師の管理

今年度も講師の管理事項の一つとして、講師の遅刻防止の為、以下の対策を継続しました。

- ① 学校の最寄駅に学校より出迎えを依頼した。
- ② 協会の職員が同行時は、駅改札口で待ち合せ、留学生の遅刻が予想される場合でも、早めの対応ができるようにした。
- ③ 出講の前日に電話で再確認を行った。

結果、今年度の遅刻事故は、一人は電車の乗り間違え、一人は集合時間の記憶違いで遅刻をした2件に留まりました。

以上

# 平成 24 年度「英語活動」教育プログラム事業報告

(自平成 24 年 4 月 1 日～至平成 25 年 3 月 31 日)

## 平成 24 年度数値目標

1. 実施校数	年間 35 校
2. 講義時間数	年間 1,800 時間

### 1. 数値目標からの乖離

年度別実績推移 (資料⑤)

	20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	目標・予算	24 年度実績	△+
実施校数(校)	29	31	35	32	35	37	+2
講義時間数(時間)	1,621	1,660	1,654	1,514	1,800	1807	+7
講師料(千円)	9,828	10,279	10,114	9,196	11,700	10,996	-704

支援状況 (16 区市 37 校 新規校 6 校) (資料⑥)

支援校数	市区名
5 校支援	大田区
4 校支援	八王子市
3 校支援	中野区・足立区・世田谷区・墨田区・多摩市
2 校支援	江東区・練馬区東村山市・稲城市
1 校支援	新宿区・板橋区・立川市・東久留米市・調布市

### 2. 「英語活動」教育プログラムの充実化

#### ① 留学生の現場指導強化および学校へのアプローチ強化

<留学生講師の魅力>

- 1) 優れた人間性
- 2) 異文化の力
- 3) 英語力
- 4) 優れたコミュニケーション力

各学校からの留学生講師の評価として挙げられる以上 4 つの「魅力」をより効果的に引き出すため、英語活動アドバイザー(太田美智彦氏・宇津木悦子氏。両名とも中学校英語教育経験者)による現場指導を年間最低 2 回確保、さらに新人留学生の実習指導も事務局と連携しながらその全てを現場で行った。また現場での受入態勢に不備のある学校については、各アドバイザーと事務局スタッフで実際に足を運び、管理職教員と話し合いを重ね、改善に努めた。

② 文部科学省および東京都教育委員会との連携

文部科学省初等中等局国際教育課教科調査官と初面談。当協会の活動を報告するとともに、国の方針を確認した。

東京都教育庁指導部指導主事に「小学校の英語活動の実際の進め方」と題して、新人留学生講師講習会において講演実施。

③ 留学生講師の確保・新人留学生講習会の充実化

募集大学数を 11 校から 18 校に増やし、募集ツールもわかりやすく刷新。さらに Facebook を通じた募集告知を試みた結果 22 にわたる国々からの新人留学生を採用することができた。その新人への研修（講習会）では、先輩講師によるモデル授業を、小学校における現状に即した形で二種類実施。新人留学生がよりイメージしやすいよう工夫した。

④ 経費削減

効果的に留学生を各学校に配置できたおかげで交通費を抑えることができ、支援校数は目標をクリアしたにもかかわらず、交通費を含む交通費は予算内に収めることができた。

3. 学校からの評価

平成 24 年 12 月、実施校すべてに対しアンケート調査を行った。

その結果、「授業前に打合せをする時間をなかなか取ることができない」という問題は残るものの、各校から留学生講師が高い評価を得ていることがわかった。

4. 平成 25 年度の体制

平成 25 年度は新人講師 25 名を登録（うち 10 名が異文化プログラムとの兼任講師）、71 名体制。37 校の支援が既に決定しており、4 月から 6 月にかけて順次活動をスタートさせていく。

<事務局>

常勤事務職員 1 名 （事業計画・予算管理・学校との折衝・講師指導・対外活動）

非常勤事務職員 1 名 （事務および経理処理）

英語活動アドバイザー 2 名（中学校英語教師経験者） 形態： 業務委託契約

以上